

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研 究 テーマ	がん看護に携わる中堅看護師のキャリアプラトーに関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	中村 卓樹
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	中村 卓樹

講演題目
がん看護に携わる中堅看護師のキャリアプラトーに関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望
< 研究の目的 > 看護師として入職してから一人前になるまで、少なくとも3年にかかるといわれている（Benner, 2006）。幾多の臨床経験を積むことで、時間と経験年数を軸にした成長曲線は右肩上がりに上昇していく。その曲線の中で平坦な横線となる、成長が停滞する時期があることが知られており、山の尾根に例え高原（プラトー）期と呼ばれている。プラトー期は看護師に限らずビジネスマンなど誰にでも起こりうるものであるが、エンド・オブ・ライフ期の看護では特に肉体的・精神的に消耗する場面が多く、キャリアプラトーに陥りやすく、抜け出せない看護師が多いのではないかと考えた。本研究を通して、がん看護に携わる中堅看護師のキャリアプラトーへの影響を明らかにすることを目的とした。 < 方法 > はじめに、テーマに関連する論文・文献のブラウジングを行った。次に、がん看護の経験がある経験年数8年目と10年目の看護師2名に半構造化面接法を用いたインタビューを行い、質的記述的にデータ分析を行った。研究に先立ち、研究協力者が所属する病院における倫理審査委員会の承認を受けた。 < 成果・今後の展望 > がん看護に携わる中堅看護師のキャリアプラトーについて、【がん看護に時間を割きたくても割けない現実】、【一般病床と緩和病床の混在に伴うマルチタスクの困難さ】が混合病棟特有の要因として挙げられた。《手術前後の患者とがん患者を同時に担当した際には特に対応が難しい》ことがわかった。【がん患者の全人的苦痛に対する理解の難しさ】や、【終わりのみえない業務がもたらす無気力化】、【同僚が辞めていく負の循環】さらには【今後の展望への不安】が、キャリアプラトーの要因となることが示唆された。また、看護師の経験年数でみると、《自身の成長が実感しにくくなる5～6年目》以降にキャリアプラトーを生じやすい、ということが示唆された。 今後は緩和ケア単科で働く看護師にインタビュー調査を行い、キャリアプラトーの要因を違う視点から明らかにしていきたい。また、新卒～経験年数3年目の看護師を対象としたインタビューを行うことで、より早期からキャリアプラトーの低減に寄与することができると考える。